

薬だっ 知識

ある日、「錠剤が大きくて飲み込みにくいので、つぶしても大丈夫ですか?」という依頼がありました。「粒が大きくて飲み込みにくかったので、つぶして飲ませていました」ということで、粉々につぶされた一包の薬を目にすることがありました。

薬をつぶして服用することは問題ないのでしょうか。

つぶしても効果にはほとんど影響のない薬もあります。しかし、中には薬自体にさまざまな工夫が施され、徐々に成分が溶けだして効果を示すものや、胃で溶けると効果が落ちてしまうため、胃で溶けずに腸で溶けて効果を発揮するもの、胃への負担を軽減するために胃で溶けないようにしているものなどがあります。

このような薬は、つぶして服用することで薬の本来の効果が得られないばかりか、望ましく

自己判断せず相談を

43. 薬の粉碎



薬剤師が調剤して粉碎した薬の例。自己判断で粉碎せず必ず相談を

ない方向に変化してしまう場合もあります。例えば、血圧降下剤の中には徐々に溶け出して効果を示す薬がありますが、つぶして服用したために急激な血圧低下を起こしてしまったという例が実際に報告されています。

もし、大きな錠剤やカプセル剤を飲み込みづらい場合、液剤や散剤（ドライシロップや細粒剤など）に薬の形を変更できる場合があります。最近では、口腔内崩壊錠（OD錠）やチュアブル錠という液体でも服用できます。

また、簡易懸濁法という、錠剤やカプセル剤をつぶしたりせずに、55度のお湯に入れて自然に崩れた状態の薬を服用するという方法もあります。

飲みにくい薬があった場合は、つぶして服用したりせずに、まずはかかりつけの薬剤師にご相談ください。薬を飲みやすくする方法を提案させていただきます。薬は正しい方法で服用しましょう。（鹿児島県薬剤師会 理事・松原佳代子）

「令和3年5月11日（火）掲載（43. 薬の粉碎）」